

奮闘の日々  
20代のフレッシュユバソン

[ 437 ]

喜屋武 圭さん  
きやん・けい

自動車プレス部品メーカーのツルタ製作所(本社刈谷市一里山町南大根12の1)の喜屋武圭さん(26)は、リーダーとして必要な力を習得中の将来の成長株だ。今は「CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)溶接」を担当する生産三課の班長を務め、より効率的に生産できるよう改善を重ねている。

2014年に入社し、まずスポット溶接を担当した。当初圧倒されたのが、同僚の素早い作業だった。「皆さん動作が早く、同じように仕事を覚えることができるのか心配もあった」と振り返る。一日一日、担当した生産量が前の日以上になるよう常に努力を重ね、技能を高めた。

ツルタ製作所



溶接ロボットを調整する喜屋武さん

志したのは、入社数年目のころに当時係長だった小野田勝・現製造部長に憧れを抱いたためだ。「自分のやる気を引き出してくれる指示、声かけをしてくれた。この人みたいになりたいと思っていた」ことが契機になった。

小野田さんからは今もリーダーとしての役割などに関して助言を受けるという。「相手は自分の

鏡」どんな指示でも相手のことを思って指示する」「部下からほられるようになってほしい」。助言された内容は胸に刻み、日々実践できるよう努めている。

同郷の仲間も大切にしている。喜屋武さんは沖縄県出身。同社自体が沖縄の高校生採用に力を入れており、社内には沖縄出身者が20人程度いる。喜屋武さん自身が気候の違いへの順応などに苦労した経験もあり、沖縄出身の後輩には私生活を含め気にかけている。

「入社当初に沖縄出身の先輩から面倒をみてもらった。その分、同じように後輩の面倒をみるのが役目」と力を込める。

今後の目標は一段の生産性向上に貢献することだ。同社では生産システムを見直し、製品を作る最小の数量単位である「生産ロット」を優先して生産する仕組みを取り入れている。「そのため生産設備の停止を減らせば、生産性向上の効果を一層と高めることができる。製造部、会社全体をさらに良くしたい」と視線を前に向けている。